

在宅保健師の会 おおさか

CONTENTS

会長あいさつ	1
令和元年度事業報告	2
令和元年度国保連合会の 保健事業に協力して	3
令和元年度第2回研修会	4
都道府県在宅保健師等会全国連絡会	4
新会員のご紹介	5
新旧保健事業専門員からご挨拶	5
TOPICS	6・7
INFORMATION	8

会長あいさつ



暑中お見舞い申し上げます。

日ごろは、行政をはじめ国保連合会の皆様、会員の皆様には、当会の活動にご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年末に中国武漢市から広まった新型コロナウイルス感染症は世界中に蔓延し、日本においても外出自粛や休業等の協力要請がなされ、今もなお社会・経済活動に大きな影響を及ぼしています。

4月24日開催予定であった当会の総会・記念講演会は感染拡大防止のため中止となり、令和2年度は予期せぬスタートとなりましたが、役員一同は気持ちも新たに会の運営に尽力してまいる所存でございます。

新型コロナウイルス感染症は、糖尿病・心不全・呼吸器疾患等の基礎疾患がある人は重症化しやすく、致死率が

大阪府在宅保健師の会 会長 池畑 久美

高いと報告されており、改めて生活習慣病予防の大切さを認識いたしております。

昨年度、私は都道府県在宅保健師等会全国連絡会に参加をさせていただきました。国民健康保険中央会から、在宅保健師等会は全国で40都道府県に設置されており構成員数は3707人で、知識と経験を活かし活動していると報告がありました。

当会は設立から22年目を迎え、会員数約120名の大きな組織となりました。当会が国保連合会を始め関係機関の皆様のご支援と先輩諸氏のご努力により継続発展し、恵まれた環境で活動できていることに心より感謝を申しあげる次第です。

今後も、専門職として更なる活動ができるよう常に研鑽に努めてまいり所存でございます。皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年度事業報告について

例年4月に総会を開催しており、今年度についても認定第1号「令和元年度事業報告(案)の認定について」、議案第1号「令和2年度事業計画(案)について」、議案第2号「令和2年度役員を選任(案)について」をそれぞれ審議する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を中止し、総会議案を会員のみなさまに送付しました。令和元年度は下表のとおり事業を実施し、多くの会員のみなさまのご協力により事業運営することができました。

令和元年度事業報告

総会	平成31年4月19日	(認定事項) 1 平成30年度大阪府在宅保健師の会事業報告(案)について (議決事項) 1 平成31年度大阪府在宅保健師の会事業計画(案)について 2 平成31年度大阪府在宅保健師の会役員を選任(案)について (その他)	出席者 35名
	平成31年4月19日 記念講演会	「生活習慣病予防対策に関する最新の動向と保健師に期待される役割」 ～保健事業の効果的な実施に向けて～ 国民健康保険中央会 調査役 鎌形 喜代実	参加者 64名 (内会員 44名)
研修会等	令和元年7月16日 第1回研修会	「動脈硬化性疾病予防のための包括的管理について」 ～脂質異常症の治療及び生活習慣改善への支援について～ 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授 岡村 智教	参加者 98名 (内会員 59名)
	令和元年12月9日 第2回研修会	「糖尿病と糖代謝の基本的な知識について」 大阪大学大学院医学系研究科糖尿病病態医療学寄附講座 寄附講座助教 高原 充佳	参加者 114名 (内会員 61名)
事業協力	特定健診未受診者対策及び特定健診受診者のフォローアップ事業	実施保険者 10保険者 岸和田市、枚方市、泉佐野市、和泉市、四條畷市、大阪文化芸能国民健康保険組合、大阪府浴場国民健康保険組合、大阪府薬剤師国民健康保険組合、大阪木津卸売市場国民健康保険組合、大阪建設国民健康保険組合	協力者 延べ196名
	重複服薬者への健康相談事業	実施保険者 8保険者 高槻市、枚方市、茨木市、河内長野市、羽曳野市、泉南市、熊取町、大阪市	協力者 延べ28名
	特定健診受診勧奨(健康相談)等支援事業	実施保険者 8保険者 岸和田市、八尾市、和泉市、羽曳野市、熊取町、太子町、河南町、千早赤阪村	協力者 延べ50名

- 役員会6回
- 会報第41号・第42号発行
- 令和元年度都道府県在宅保健師等全国連絡会役員会への出席(池畑 久美)
- 令和元年度都道府県在宅保健師等全国連絡会への出席(池畑 久美)
- 大阪府介護保険審査会委員(飯沼 恵子、森長 康子)

令和元年度 保健事業に協力して

令和元年度は多くの会員みなさまに特定健診受診勧奨(健康相談)等支援事業、特定健診未受診者対策及び特定健診受診者のフォローアップ事業、重複服薬者への健康相談事業にご協力いただきました。今回は、8名の会員にそれぞれの事業に従事しての感想をご投稿いただきました。



特定健診受診勧奨(健康相談)等支援事業

- 地域に出向いての健康相談については、その地域の雰囲気や特性がうかがえた。健康相談はお互いに初めて顔を合わせて話をするので不安と緊張があった。できるだけ相手がほっとでき、安心できる対応に努め、また支援者が一方的に指導する場ではなく、相手にどんどん話してもらいようにポジティブフィードバックで返していくように心がけた。その場限りの健康相談でなく、継続して健康相談が必要な人に対しての情報提供やフォロー体制も必要かなと思う。

現在、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は日本でも感染拡大によりあらゆる業界が甚大な影響を受けている。日本では5月末に緊急事態宣言が解除されたとはいえ、コロナ禍が生み出したあらゆる制限は仕事の在り方などデジタル化を加速しているように思う。この健康相談や電話相談もテレワークになっていくのではないかとふと思ってしまう。

岡本 まつ江

- 私は、毎年、健康まつりの保健指導に従事しています。そこには、生活習慣の改善にいろいろ努力されている方々、工夫されている方々、年に一度の機会を生活習慣改善の継続に活かす方々、いろいろな方々が来られます。そして、私にとってそれが楽しい出会いの場になっています。科学技術の進歩、社会の変化とともに、医療や介護、看護の在り方が変わりつつあり、私たち保健師に要求されるものも様変わりしています。しかし、人々との出会いから得られるものは、変わらないように思います。今年は、どんな話ができるかなあと思いつつ、今年もお手伝いできればと思っています。

清水 一二三

特定健診受診者のフォローアップ事業

- 昨年初めてフォローアップ事業に参加しました。暫く仕事をしていたので不安でしたが、マニュアルが完備され安心して参加できました。また苦情等に対しても職員の皆様が対応してくださって助かりました。電話から伺える方々の生活背景も感じとられ保健師としてやりがいもありました。昨今新型コロナで大変ですが一日でも早い収束を願っています。

秋元 良子

- 特定健診後に対象者に受診状況をお尋ねし、うまく治療に繋がってられる方は生活習慣をどう工夫すればいいかを話し合えます。が、受診行動につながっていない方に必要性や生活習慣の工夫を理解してもらうには新しい情報でわかりやすく、出来ることを共に探す工夫をしていきたいと思っています。

福本 礼子

特定健診未受診者対策事業

- 特定健診未受診者への受診勧奨は、数年ぶりの保健指導であった。電話から聞こえてくる人の声や、現状把握のための質問、生活習慣改善について話すことなど、タイムスリップして甦る感覚があり、とても懐かしく久しぶりに保健師の仕事をしたという実感があった。受診行動に結びつくことを願ってこれからも精進したい。

辻 恵子

- 面識のない方への電話相談はとても緊張感の高まる事業のひとつですが、実際には連合会で作成された記録票とマニュアル通りに進めていけば未受診の理由なども話してくださる方が多いです。

国保組合の方には「仕事中です」「お客さんが来ました」と切れてしまうことや、府外に居住の方では受診先等の不便から保険者への意見をお伺いすることもありました。しかし、健診の意味を受け止めて頂く機会となり、次年度受診につながればと思います。

山下 典子

重複服薬者への健康相談事業

- 患者様は、薬を重複していることに罪悪感をもちながら、薬(特に向精神薬)依存が強くなっていることに気づいていない方が多いと感じます。

保健師として、薬剤の知識だけではなくメンタルのフォロー知識等も必要です。対象者が毎月6~7か所の医院を回り同じ薬を処方されている現状があり、医療体制が早く改善されることを望みます。

奥野 礼子

- 事業目的に沿って、健康な日常を維持するための服薬であることを伝え、受診状況や薬局との付き合い方、健康管理方法を聞かせて貰います。特に薬効部分は、国保連合会の作成資料を確認しつつ、生活支援することを心がけます。

最近「市から連絡があった電話ですね」と意識の高さを感じる反面、「先生に任せているから」と対応に苦慮してしまいます。

K・T

令和元年度 第2回研修会

と き：令和元年12月9日(月)

テーマ：糖尿病と糖代謝の基本的な知識について

講師：大阪大学大学院医学系研究科 糖尿病病態医療学寄附講座
寄附講座助教 高原 充佳 先生

参加者
会員 61名
市町村 53名



【研修の要旨】

糖尿病の基本について、糖代謝の生理学を「体の中の糖の流れ」、糖尿病の病態学を「どうして血糖値が上がるのか」「インスリン分泌能の低下」「インスリン抵抗性」等のわかりやすい図を用いて詳しく解説していただきました。また、高齢者糖尿病患者を含む保健指導時の留意点や薬物療法等の最新の知見も取り入れていただき、ぜひ実践で活かしたいとの感想が多く寄せられました。参加者アンケートを参考に、ポイントの一部を抜粋します。

ポイント①：「血糖値」・「HbA1c」とは

- 血糖値とは 血糖値=血中グルコース(=ブドウ糖)濃度
- HbA1cとは ヘモグロビン+ブドウ糖(グルコース)⇒糖化ヘモグロビン(HbA1c)
- 朝の血糖は、目覚めさせるためのホルモンが作用するため上がりやすい

脳と白血球に必要

「朝ごはん」は1日の活動の源

ポイント②：骨格筋とインスリン抵抗性

糖の大半は骨格筋で消費されるため、身長・体重・BMIが全く同じでも骨格筋が多い人の方が糖を効率よく取り込むことができる(筋トレが大切)

ポイント③：糖尿病の治療

- 食事療法、運動療法は影響が非常に大きい
- 薬物療法について正しく理解することが重要

(誤)「インスリン注射に対する誤解」

- インスリン注射したら癖になる
- インスリン注射したら最後
- インスリン注射したら止められない
- インスリン注射したら透析になる

(正)インスリン(注射)は

- もともと体の中にあるホルモン
- 内臓が悪い人でも使える
- 妊婦さんでも使える
- 必要な時に必要に応じて使える

ポイント④：「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標(HbA1c値)」

「糖尿病診療ガイドライン2016」より

患者の特徴・健康状態	カテゴリーⅠ		カテゴリーⅡ	カテゴリーⅢ
	①認知機能正常 かつ	②ADL自立	①軽度認知障害 ～軽度認知症 または ②手段的ADL低下、基本的ADL自立	①中等度以上の認知症 または ②基本的ADL低下 または ③多くの併存疾患や機能障害
重症低血糖が危惧される薬剤(インスリン製剤、SU薬、グリニド薬など)の使用	なし	7.0%未満	7.0%未満	8.0%未満
あり	65歳以上 75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%)	75歳以上 8.0%未満 (下限7.0%)	8.0%未満 (下限7.0%)	8.5%未満 (下限7.5%)

高齢者糖尿病においても、治療目標は、年齢、罹病期間、低血糖の危険性、サポート体制などを考慮して個別に設定する。ただし、加齢に伴って重症低血糖の危険性が高くなることに十分注意する。

都道府県在宅保健師等会全国連絡会

令和2年2月6日、東京都の全国都市会館で開催され、全国から79名の保健師等が参加し、大阪からは在宅保健師の会池畑と国保連合会保健事業担当職員の2名が出席しました。

開会にあたり国民健康保険中央会 理事長 原勝則氏から、全世代型社会保障改革が進んでおり高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施(以下、一体的実施)の取り組みがスタートし、在宅保健師等会への期待は大きいと挨拶がありました。

同会 保健福祉部 主幹 小池泰明氏からは「保健事業を取り巻く国の動き」として経済財政運営と改革の基本方針と成長戦略実行計画、健康保険法等の一部を改正する法律等多岐にわたる説明がありました。

続いて、奈良県生駒市 保健福祉部 次長 田中明美氏から「高齢者の保健事業について介護の現状から考える～医療専門職の果たすべき役割～」について講演がありました。総合事業を通して高齢者が高齢者を支える仕組みづくりを促進されており、前期高齢者と後期高齢者

の特徴を生かしたアプローチを工夫されていること、教室修了者が担い手になる仕組みを作られ、その結果、要介護認定率が低減し、予防給付・総合事業決算額も減少し、財政的効果も大きいとのことでした。

事例発表では大分県在宅保健師等会「虹の会」の日隈桂子氏から、「お元気ですか訪問 高齢者の介護予防と保健事業の一体的実施(令和元年度モデル事業)」の発表があり、続いて神奈川県在宅保健師会「いちょうの会」の斎藤初代氏から、「健康劇・特定健診等保険者支援」の取り組みについて発表がありました。

グループ討議では「一体的実施に対してどのようなことができるか」をテーマに5県の保健師と意見交換をしました。

今回の全国連絡会は、一体的実施が大きなテーマでした。国保中央会からも在宅保健師等会への期待が大きいこと、予算措置や法的整備もされたことを認識し、今後も国や大阪府内の動きや情報を把握し、当会がどのような取り組みが出来るのかを考えていくことが求められていると感じました。

池畑 久美

新会員のご紹介

令和元年12月から令和2年4月までの間に、新たに6名の方を会員にお迎えしました。新会員の皆様から入会動機や会に期待すること等を投稿していただきましたので、お名前の50音順に原文のままご紹介します。

※「川村律子さん」は「新旧保健事業専門員からご挨拶」で紹介します。

●● 池淵 加代子さん ●●

市町村保健師として退職後も事業に関わってきましたが、今年リセットして、フリーになりました。今後のことは無くなっていましたが、以前、当会員の方に見せていただいた研修資料がとても役立ったことを思い出し、ぜひ入会して生きがい作りができたかと期待しています。よろしくお願いします。

●● 上野 清美さん ●●

先輩からご案内いただき入会いたしました。皆様にご指導いただきながら、保健師として学ぶ姿勢を持ち続けたいと思います。よろしくお願いいたします。

●● 山下 裕子さん ●●

はじめまして。2019年12月に入会しました。退職後、非常勤保健師として働いてきましたが、最新の知識を得る機会もなく、このままで大丈夫なのかと悩んでいたところ、前職場の先輩から当会を紹介いただき、入会しました。研修会がとても充実していると聞き、とても楽しみにしています。これからも最新の知識や情報を学びながら、活動していきたいと思っています。

●● 伊藤 一美さん ●●

新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでの社会生活が大きく変わってきましたので、どこまで協力できるか不安を抱えながら入会しました。このウイルスは、まだ十分解明されていないですが、糖尿病、心臓病、腎臓病などの持病が重症化しやすいリスク因子になっていると言われていています。しばらくこのコロナと共存していく上でも、被保険者の命を守る保健指導の重要性を再認識しました。今までの経験を活かし、少しでもお役に立てたらと思います。よろしくお願いします。

●● 福井 由美さん ●●

きっかけは以前パートで勤めていた市役所からのご紹介でした。

現在まで病院看護師、企業での産業保健師、市役所パート勤務、学校保健の常勤講師など経験してきました。人の健康に携わること、一生のの仕事にしていこうと思っています。研修などにも参加して、ご経験豊かな先輩の方々と交流もさせて頂きたいと考えています。皆さま、よろしくお願い致します。

新旧保健事業専門員からご挨拶

年初から、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。つくづく、健康の大切さや予防の重要性を感じずにはいられません。

さて、私事で恐縮ですが、この3月末をもちまして大阪府国民健康保険団体連合会を退職いたしました。在職中は何かとお世話になりました。ありがとうございました。

多くの会員の皆様と出会うことができ、多くのことを学ばせて頂いたことは私の財産となりました。心からお礼申し上げます。

また、退職と同時に在宅保健師の会へ入会させていただきました。このご縁を大切に諸先輩方と共に学びを深めて参りたいと思っています。どうか、これからもご指導のほど何卒よろしくお願い致します。川村 律子

令和2年3月に東大阪市を退職し、大阪府国保連合会にお世話になることになりました。

ここでは在宅保健師の会の皆様の活動を通して特定健診・保健指導を学び一緒に仕事をさせていただくことを楽しみにしておりましたが、年度当初、新型コロナウ

イルスの感染拡大の防止で研修や事業が中止になりとても残念でした。

まだまだ至らない点もありますが、微力ながら努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

吉井 ひろみ

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症対応の最前線におられる関係者の皆様には、命がけで従事されていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

今年1月中国で発生した新型コロナは、瞬く間に全世界に拡大しています。日本では、2月より毎日陽性者・死亡者数の増加が報告され、4月16日には全国に緊急事態宣言が出されました。大阪府内では3月、クラスター発生に伴い陽性者が急増し4月9日には92人とピークとなり、対策として密閉・密集・密接の防止を基本に、学校の休校、外出・休業自粛要請等がなされました。

こうした中、公共施設も閉鎖され保健事業や健康づくり活動等がほぼ中止となりました。今回の経験で、改めて「手洗い、マスク着用、咳エチケット」が感染予防の基本であることを再確認されたことと思います。

「大阪モデル」の出口戦略が出され、5月21日緊急事態宣言が解除されました。第2波への備えもありますが、新しい生活様式に沿って取組みを始めていきましょう。

森崎 文子

会員の皆様に、過ごし方や取り組んでいることなど投稿いただきました。

●宮沢賢治の「農民芸術概論」より『世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない』 M.T

●このコロナウイルスは自覚症状がない状態でも周囲に感染させてしまう面倒でやっかいなウイルスだとか…私ステイホーム中に芽ののびているじゃが芋を土に埋めてみました。ただ今すくすく育ち、花が咲く頃を楽しみにしています。 匿名

●気を引きしめたのは、高鳥毛先生の話をしてから。きっと長丁場になる、健康保菌者がいるのだと。縮小された公衆衛生でどんな展開になるのだろうか。自粛生活では、99歳で見送った義母の遺品整理に手をつけた。まさに戦後を生き抜いた母の災害備蓄の山。コロナ戦争の後に明るい未来を祈るばかり。 K.Y

●コロナ禍で、ボランティアや趣味の活動もすべて3密なので中止。保健師の仕事も乳幼児健診等延期になりました。保健所業務の大変さをニュースで見る毎に何かお役に立てないかと考えています。コロナ後、社会がどう変わるか貴重な時間を有効に過ごしたいと思っています。 Y.O

●時間たっぷりの自粛生活で沢山の本を読んだり、体操をしたり、初めてのオンライン通話を経験したり、

特養の母と電話会話したり。現役の保健師や医療従事者にエールを心から送りたいと思いました。先進国と思っていた日本の医療体制では不便さや不平等が見えて悲しく思いました。 上柳 より子

●新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた人生初のテレワークをしました。申請し、承認後自宅を開始です。始業、中断、再開、終業を上司宛に電話で報告致します。時計を机の上にセットし、報告が遅れない様にしました。 Y.I

●「外出しようと思えばいつでもできる」という当たり前のことが幸せだったと気づきました。外出を自粛し、人との接触を減らし、手洗い、うがいに心がける。その行動が大切にする人々、社会全体を守ることになると信じて耐えていこう！ N.H

●検温、マスク着用した買い物、手洗い等まるで優等生のような閉じこもり生活です。そのため活動量が↓、かえって不健康だと。人の少ない時間帯に近くの公園を散歩、そして友人とリモート会をして情報交換ならぬストレス解消(?) R.N

●最初の頃、テレビの前で筆記用具片手に釘付けになって情報収集した。正体の見えないウイルスに不安と恐ろしさを感じた。緊急事態宣言下、毎朝検温、

血圧測定、ウォーキング(約1時間)で健康管理に努めています。 峯森 好美

● 人との交流の制限に伴い、心に張りがない、体重増加などの悪状況も自覚せずにはおれません。置かれている環境の中で、自身ができることを見出し、心身の健康を担保していくポジティブな姿勢と、実践するアクティブさの大切さを痛感しています。 K.I

● 外出自粛生活では、生後8か月で10kgを超えた孫を抱いてのスクワットで運動不足を解消しています。早くワクチンや治療薬が使えるようになりますように。 R.F

● 大阪府のシンボルタワーが緑色にライトアップされ、やっと安心の気持ちになりました。保健所の相談体制の不十分やPCR検査の総量等、報道が気になる日々。コロナウイルスの正体がわかるにつけ、明らかになる知見にも関心があり、1日を短く感じて過ごしたような気持ちがします。 N.Y

● これまでの生活がいかに自由だったか、人と会ったり喋ることの力の大きさを痛感。最近入部した俳句クラブ(今は誌上)に提出するため、眼をキョロキョロ、指を折りながら句づくりに、脳トレに役立っています。庭の花木の手入れや夏野菜づくり、次々咲く花に癒されています。 Y.T

● 外出を少なくするために、買い物週1~2回、メモして短時間だと思うも、買いすぎる傾向。間食が多くなったかなあ? テレワーク体験、これは今後重要と思った。公衆衛生、保健所と久しぶりに報道で聞いて、現場の大変さを思うと共に現役時代を思い出した。 匿名

● 外出自粛生活は色々と考えさせられた期間、活動が出来なくなりショックでした。でも、私自身ではボランティア活動の資料をメール交換で作成し、定例会がいつでも開催できるよう準備しています。老人クラブでは、ニュースの発行やご近所を訪問し安否確認しています。笑顔で再会を!! Y.M

● 現職を離れた身としては、現場で懸命にコロナ対策に取り組んでいる保健師や他の看護職の方々に頭が下がります。今回の感染状況を見て、改めてマスクや石けん手洗いの効果を実感。宣言が解除され第二波がこない事を祈ります。 H.T

● “疲弊する保健所”の報道に悶々とする。殺到する電話の相談対応等必死で頑張ってきたが、第2波を考えると心が折れそう、と現場の声を聞く。疲弊する保健師・現場の支えになれないか。OBとしての思いがあります。 E.S

● 日本中、いや世界中を新型コロナ感染症の影響を受け、とんでもない事態になっています。保健所やそこで働く保健師にとって、業務の増加は大きな問題となっています。疫学的な予防に加え、私たちは、看護者として「疾病予防とは何か」を改めて見直さなければならぬと感じます。保健師の看護活動は、人々の日常生活の何気ない行動、習慣等、生活の上の様々な健康問題を明らかにし、人々とともに解決方法を見出すこと、解決に向けて支援をすることだと思います。数々の分野で活動する保健師たちが、平時から連携しやすい関係をつくり、それぞれが健康危機や健康問題に対して、連携した活動ができるようにすることが大切だと思います。これを機会に、看護の基本に立ち戻り在宅保健師の会の私たちができることは何かを考えたいと思います。 H.S

● 夫は食道癌術後合併症で左肺はほとんど機能していない。「コロナに感染したら死ぬだろう」と話していた所、4月中旬より咳が続き夜中もひどくなった。防護服での診察を受け、肺炎の診断。一週間往診での点滴を受け、3週間になるがまだ安静中である。受診の遅れとかかりつけ医のありがたさを身を持って感じた次第である。 F.M

● 外出自粛生活で、なかなか手がつけられなかった障子張り替えやクローゼットの整理をしたり、夏野菜を植えたりこまめに動くようにしています。一部の人たちですが、医療従事者やその家族への偏見や差別があることは、情けなく悲しいです。 K.I

多くの方から投稿をいただいたため、一部抜粋しているところがありますが、ご了承をお願いします。



令和2年度 役員の紹介

令和元年度に引き続き、池畑会長、上柳副会長、森崎副会長、沢田幹事、武部幹事の5名の皆様に、役員として活動していただきます。



武部幹事、森崎副会長、池畑会長、上柳副会長、沢田幹事

保健事業専門員の紹介

令和2年3月をもちまして川村専門員が連合会を退職されました。3年間にわたり、保健事業の充実・強化のため従事していただきました。

今年度からは保健師の吉井専門員が、岡森専任専門員、上林専門員、天見専門員と共に、連合会の保健事業及び当会の活動の更なる円滑な運営のため職務に当たります。



保健師の
皆様へ

大阪府在宅保健師の会 入会のご案内

保健師としての豊かな知識・経験を生かして地域住民の健康づくりに取り組みませんか？

主な活動として

- 連合会事業への参加
- 時代に合った専門職としての活動に向けた知識や技術習得のための研修会への参加
- 情報交換や会員相互の交流 など

保健師の資格をお持ちの方が身近に
いらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

研修会のご案内

令和2年大阪府在宅保健師の会 第2回研修会(予定)

テーマ：効果的な保健指導を中心に(仮題)
講師：国立病院機構京都医療センター
 臨床研究センター 予防医学研究室長
 坂根 直樹 様
と き：令和2年12月14日(月) 午後2時～4時
会 場：大阪府国民健康保険団体連合会

令和2年度保健事業計画(協力予定)

事業名	実施保険者
特定健診受診勧奨(健康相談)等支援事業	岸和田市・八尾市・和泉市・羽曳野市・熊取町・太子町・河南町・千早赤阪村
特定健診未受診者対策事業	和泉市・忠岡町・大阪文化芸能国民健康保険組合・大阪府浴場国民健康保険組合・大阪府薬剤師国民健康保険組合・大阪木津卸売市場国民健康保険組合・大阪衣料品小売国民健康保険組合・大阪建設国民健康保険組合
特定健診受診者のフォローアップ事業	岸和田市・泉佐野市・四條畷市・大阪府浴場国民健康保険組合
重複服薬者への健康相談事業	大阪市・吹田市・高槻市・枚方市・茨木市・羽曳野市・泉南市・熊取町・岬町

ホームページのご案内

令和2年2月から、
連合会ホームページ内に
入会案内及び会則等を掲載しました。

発行

【事務局】

大阪府国民健康保険団体連合会

総務部 企画事業課 保健事業係
 〒540-0028 大阪市中央区常盤町1丁目3番8号(中央大通FNビル内)

TEL (06)6949-5378

FAX (06)6949-5370

H P <http://www.osakakokuhoren.jp/>